



写真上/屋根が広がり明るくなったオリオンスクエア  
写真下/会報にも折り込まれた「新型コロナウイルス感染症支援ガイドブック」



〈特集〉  
新春×対談

宇都宮商工会議所 会頭

宇都宮市長

# 藤井昌一 × 佐藤栄一

## コロナ禍を乗り越えて活力を 新しい「宇都宮」づくりを、市と商工会議所のタッグで

本誌恒例の新春対談です。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響を大きくうけた1年でしたが、その中でも未来につながる明るい動きが生まれています。佐藤栄一市長と藤井昌一会頭に、昨年を振り返りながら、新しい年に向けての抱負を話していただきました。

「宇都宮市のすばやい対応に感謝」

(藤井会頭)

藤井 佐藤市長、明けましておめでとうございます。昨年は市長選挙当選も果たされましたね。5期目のご活躍を期待しています。

佐藤 ありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の流行が収まらない中で、市民のマイナードにも大きな影響を与えていると思います。

藤井 毎年開催していたイベントの多くが中止や規模を縮小しています。毎年恒例の新年賀詞交歓会も今年は中止となりました。

佐藤 FIBA 3×3 ワールドツアーのうちみやまスタジアム、クリテリウムを含むジャパンカップサイクルロードレース、宮まつりなど、さまざまなイベントが中止となりました。

藤井 秋に開催していた宇都宮餃子まつりや宮の市(商業祭)も中止となり、ミヤ・ジャズインは規模を縮小しての開催でした。これらの影響は経済的に大きな痛手だと思います。

佐藤 その一方で、約1年の改修工事を経て、オリオンスクエアが10月にリニューアルオープンしました。感染予防に万全を期しつつ、さまざまな団体が活用していること、うれしい話題だと感じています。

藤井 イベントをはじめとして経済を回していくことも重要だと思います。宇都宮市には、コロナ禍への対応として企業等応援助成金をはじめとする資金繰りの支援

行うためにも、今後も宇都宮市と協力してまいります。

佐藤 ありがとうございます。経済政策は、事業所と最も接点のある商工会議所とタッグを組まないと、実効ある対策は打てませんから。

### 「より一層の公共交通の充実を」

(佐藤市長)

藤井 暗い話はこのままでして、新春らしい夢のある話をしましょう。LRTの工事が着々と進んでいますね。これからの公共交通についてお考えを聞かせてください。

佐藤 宇都宮市民で車の免許を返納された方は、この5年で7千人くらいいらっしゃいます。今後も当然増えていくでしょう。

それに伴って、市民生活における公共交通のあり方も変化していきます。

もちろん、車が走りやすい環境はこれからもつくっていきます。経済面では効率性を考えると、渋滞の解消は必要なことです。ですから車のための道路整備は、新設も含めて、これからもやっていきたいと思っています。

その一方で、免許返納などにより車の運転ができない人も増えますから、その人たちのための移動手段をつくる必要があります。宇都宮市では、より一層の公共交通の充実を目指していきます。

藤井 高齢化社会を迎えて、公共交通の充実には不可欠ですし、そこに新しいビジネスチャンスが生まれると考えています。

佐藤 いま宇都宮ではLRTが注目されて

や、宮の食ベトクチケットなど、すばやい対応をしていただき、大変感謝しています。当所としても早急な経済対策が必要と考えていましたので、さまざまな分野で、お手伝いをさせていただきました。当所でも独自に緊急実態調査を行い、実態に即したさまざまな支援事業を実施してきました(コラム参照)。

佐藤 経済分野ではしっかりアクセルを踏んでいただけるよう、状況に応じてきちんと対応をしていきます。経済がダメージを受ければ、宇都宮の街も元気を失います。ですから早め早めに手を打っていくことが、行政の役割だと考えています。

一方、コロナ対策にも万全の体制をとります。現在、宇都宮市における1日

当たりのPCR検査数は、各医療機関の協力のおかげで1日あたり1100件を達成しています。この体制は宇都宮市医師会と宇都宮市歯科医師会、栃木県看護協会の方々のお力添えもあり、ドライブスルー方式が実施できていることも要因の一つです。改めて医療従事者の皆さまに感謝するとともに、今後も、検査数の増加にも対応していきたいと思っています。

今後は、65歳以上の方や基礎疾患のある方、それに仕事でどうしても海外に行かなくてはならない方などを対象に、PCR検査費用を宇都宮市が助成できるようにいたしました。

藤井 当所も宇都宮市ビジネスPCR等検査支援事業(P9参照)で協力しています。感染予防と経済活動をバランスよく

### コラム 宇都宮商工会議所のコロナ関連事業

宇都宮商工会議所では、新型コロナ感染症への対応として、さまざまな事業を行いました。主なものを紹介します。

#### ■調査事業

- ◎緊急実態調査(2月、5月)  
4割の企業がコロナ禍の影響あり、6割が売上に影響したと回答。追跡調査では8割が影響あり、4割が売上半減と回答。
- ◎新しい生活様式への対応に伴う商店街実態調査(10月)

#### ■経営相談など

- ◎新型コロナウイルスに関する経営相談窓口(1月～)
- ◎補助金個別相談会 4回(7月～10月)
- ◎専門相談員の配置(8月～)
- ※他に「緊急!資金繰り相談会」「労務相談会」「テレワークセミナー」などを実施

#### ■新型コロナウイルス感染症支援ガイドの発行 2回(4月、5月)

国、県、市などの支援施策を取りまとめた内容。

#### ■販路開拓支援事業

- ◎宇都宮プレミアム商品券の販売(青年部)  
1枚1000円の商品券を900円で販売
- ◎ザ・ビジネスモール「BM SOS モール」の活用(3月～12月)
- ◎タクシー初乗運賃および買物代行料金支援事業(6月～8月)
- ◎インターネット通販支援事業(令和3年2月開始予定)
- ◎ネットショップ「おもてなしギフトショップ」への参加支援
- ◎コロナ禍における集客イベント支援事業(令和3年1月開始予定)
- ◎サーマルカメラ貸出など

#### ■観光支援

- ◎宇都宮餃子の配送料およびデリバリー配送料支援(6月～7月)
- ◎宇都宮餃子の配送料支援(11月)

#### ■事業支援・協力

- ◎国や県、市の給付金や助成金などの事業を支援



佐藤 栄一

昭和36年生まれ。明治大学法学部法律学科卒業。昭和61年3月から平成16年11月まで北関東観光開発(株)代表取締役。平成9年、(社)宇都宮青年会議所理事長就任。平成12年、(社)日本青年会議所副会頭就任。ほかに、宇都宮商工会議所青年部会長などを務める。平成16年11月28日から宇都宮市長(5期目)。

います。これが完成すれば、地域の公共交通全体の中では背骨の役割を果たします。そしてそこにバス路線が接続し、さらに地域内交通が空白地帯を埋めていくこととなります。LRTの完成に合わせて、路線の新設や本数の増加などバス路線の充実もバス会社にお問い合わせいただくのはありません。

地域内交通は現在タクシー会社の方々に運行していただいています。地元からは「もっと増やしてほしい」という声も上がっていますが、運転手の数は簡単には増やせません。

藤井 なるほど。車輛を増やすだけではダメなのですね。

佐藤 私どもが目しているのは「自動運転」です。この2月から順次、河内

と清原で地域内交通の自動運転の実証実験の第1歩である「予約配車システム」の実験を実施する予定です。

もう一つ、公共交通利用や乗り継ぎの利便性を高めることが、利用を促進には不可欠です。そこで「上限運賃制度」を導入してまいります。LRTやバスの利用にはSuicaの機能に加え、地域独自サービスも提供できる地域連携ICカード「totora」を導入することで利便性の向上を図りますが、加えて宇都宮市内であれば片道運賃の上限を500円以下に設定し、それ以上は何度乗り換えても運賃がかからない制度とします。地域内交通を含めてすべての公共交通がそのICカードで乗れるようにしますから、利用者も増えると思います。

藤井 公共交通の利便性を高めることがこれからの地域社会では必要ですね。

### 「LRTは観光資源になる」

(藤井会頭)

藤井 市長がおっしゃっているスマートシティ(※注)も、全国に先駆けた取り組みであり、われわれ経済界も期待しています。今年は本格的な動きがスタートする年ではないでしょうか。

佐藤 全国のモデル都市になっていますからね。私どもが頑張れば頑張っただけ、全国からの注目度がありますから、職員一丸となって取り組んでいます。

来年度中に地域新電力会社を設立して、ごみ焼却施設で生み出されたり、家庭の太陽光発電でつくり出されている電力を買い



スマートシティイメージ図



スマートシティ  
詳細はコチラ

(※注) スマートシティとは

LRTを軸とした公共交通ネットワークの構築を契機として、人口減少・超高齢社会においても、誰もが自由に移動でき、観光地やまちなかで便利で楽しく過ごすことができるクリーンで持続的・自立的に発展していくまちを目指す取組です。宇都宮市や宇都宮大学などを含む産学官の連携組織である「Uスマート推進協議会」において、先進的なICT等の技術を活用した実証実験等をあらゆる分野で推進するほか、取組で得られたデータや行政情報を組み合わせることで、地域課題の新たな解決策や、より利便性の高いサービスの創出を実現していきます。

取つて、LRTで活用したり地域の公共施設で使おうと考えています。そういった先進的取り組みを全国に先駆けて推進していきます。

藤井 近年、他県から「LRTやスマートシティ関係の見学をしたい」というお話を、いくつもいただいています。すでに全国的に注目を集めていると思います。LRTは生活の足というだけでなく、観光資源にもなると思います。われわれとしても、1日もはやく目に見えるものに実現していただきたいと期待しています。

商工会議所としては、LRTの西側延伸についても、ぜひスタートしていただければ伸ばすことができれば、観光産業に大きなプラスになります。

佐藤 駅西側LRTについては、現在、計

画区間である「桜通り十文字付近」からの延伸について、まちづくりや技術的な観点で検討を行っており、令和3年3月末までには、西側のルート発表もできると思います。

藤井 東西を結ぶ方法については、駅西口駅前広場の上部に停留場を設け、同広場や田川に架かる宮の橋交差点を高架で通過し、上河原交差点で地上に降りてくると報道されてきました。これからが楽しみです。公共交通が充実することで、企業誘致や移住定住などの促進が期待できます。それによって、宇都宮市全体の経済も活性化したいと思います。それはぜひ実現させていただきたいですね。年の初めに、ぜひお願いしておきます。

### 「駅東口地区の開発は『街づくり』」

(佐藤市長)

藤井 宇都宮駅東口地区の開発も楽しみです。コロナ禍でハイブランドなホテルの計画に遅れが出ましたが、その他は順調のようです。

佐藤 まずは民間の高度専門病院がオープンします。その後カンデオホテルズの入る複合施設がオープンします。駅東口地区の開発は、まさに「街づくり」、宇都宮の東半分が大きく変わりますよ。

藤井 街の雰囲気、本当に変わると思っています。そういう点も楽しみですよ。佐藤 街が変わり、LRTが走る姿を見れば、久しぶりに宇都宮に帰ってきた人ばかりです。



藤井 昌一

昭和29年生まれ。玉川大学農学部卒業。平成2年6月から藤井産業代表取締役社長。平成10年11月に当所常議員就任。平成27年2月当所商業卸部会長就任。平成28年11月に副会頭就任。令和元年11月会頭に就任し、現在に至る。ほかに北関東電設資材卸業協同組合理事長、(一社)宇都宮工業団地総合管理協会理事長を務める。

藤井 これから変わっていく街の魅力を伝えることが今後さらに重要になりますね。

東洋経済新報社「2020年版 都市データバック」で、宇都宮市の「住みよさランキング」が、全国の人口50万人以上の28市で、前年の4位から3位に順位を上げました。このようなわかりやすい指標があると魅力が伝えやすいと思います。

佐藤 宇都宮市では、昨年10月、東京都港区虎ノ門の「CIC Tokyo」内に「宇都宮サテライトオフィス」をオープンしました。専任職員を常駐させ、東京圏の人や企業に対する宇都宮市の魅力発信や、宇都宮市内企業と東京圏企業との事業連携、企業の誘致などの活動を行います。藤井 今後のビジネスで役立つ形で運営されるところとお聞きしていますから、商工会議所としても期待しています。

佐藤 たくさんの外国人投資家も来られるようです。宇都宮の企業のPRにもなります。

藤井 宇都宮は東京100キロ圏内ですから、ポテンシャルは高いと思います。例えば情報サービス産業など先進的な企業を宇都宮に誘致できれば、本当にいいと思います。

佐藤 商工会議所と協力して、どんな企業誘致をしていけるようになれば、と思います。ぜひ一緒にがんばりましょう。

藤井 ありがとうございます。それでは最後に今年の抱負をお願いします。佐藤 先ほどからお話しているコロナ対策や公共交通、CICを使った企業誘致などに加え、防災にも力を入れていきます。一



サテライトオフィスが入居するCICTokyo